

スポーツ文化の風を発信する

学報NITTAIDAI 16号

2007.Autumn

CONTENTS

特集●実演会 — 1

新採用教員の研究内容 — 3

INTERVIEW●アスリートたち — 5

学外研修報告 — 7

Column●スペシャリストに学ぶ!
健康&スポーツ — 11

クラブ情報●07年度夏季クラブの
主な大会成績 — 13

NEWS●07年度下半期ニュース — 14

INFORMATION●dot.NITTAIDAI — 15



NSSU
Nippon Sport Science University

宮内 愛 (武道学科・4年)
撮影: 東京・世田谷キャンパス

半世紀の歴史と伝統を刻む第48回実演会開催!!

第1回「体育研究発表実演会」が開催されたのは1954年9月26日、地方実演会が実施されたのは翌年の55年。以来半世紀を超えて、観る者と演ずる者が一体となって感動を共有してきた実演会は、今回で48回目を迎える。特集では、伊藤直樹実施委員長に今回のテーマや意義を、参加学生には「ボクらの抱負」を、そして第1回から参加された池田敬子・名誉教授には当時の思い出を語っていただいた。

第48回体育研究発表実演会を
迎えるにあたって

日体大生の 力漲る演技に 期待してください。



体育研究発表実演会
実施委員長

伊藤 直樹 教授

今年で第48回を迎える実演会のテーマは「**力漲る演技**」です。これは日体大の学生たちの力漲る演技を余すところなくご覧いただきたいというメッセージです。1954年から始まった実演会の草創期は、教員や学生たちが日頃の研究成果を発表する場でした。今回は、かつての実演会も振り返りながら、新しい研究を発表するプログラムもあります。例えば、教育心理学の教授による「見る、観る、観る」では、日夜研究されていることや現場で実践されていることを発表していただきます。

また、1人がリーダーとなり、何千人もの観客の皆様と、一緒に体を動かしていく「みんな一緒に」にも、参加型のとても面白いプログラムです。さらに、新しいスポーツのセパタクロ1では日本のトップ選手が参加して、優れた技術を披露します。

体育・スポーツの魅力と素晴らしさを広く全国に伝える地方実演会は、香川、岡山、広島、山口の4県をまわりますが、日本における少林寺拳法発祥の地である香川県にちなんでプログラムに少林寺拳法を取り入れました。

実演会の長い歴史を飾ってきた種目の中でも、とりわけ「集団行動」と「エッサッサ」は、日体大の二つのシンボルともいえるでしょう。「エッサッサ」は、1か月以上以上にわたり毎朝6時から1時間の練習をします。特に今回は開催時期が11月末ですから、早朝6時はかなり寒いですが、学生たちが汗をたくさん流しながら練習する姿を記録して多くの方に見ていただける企画も用意しています。

実演会は日体大のアイデンティティと力を最大限に発揮できる絶好の機会です。演技者は日体大生としてのプライドを持って参加してほしい。そして見に来ていただける皆さんに感動を与え、楽しい時間を共有できるよう期待しています。

ボクらの抱負「エッサッサ」

**困難に
立ち向かった先に
感動が待っている。**



深沢男子第一学生寮
寮委員長(4年)

上野 優一

「エッサッサ」の練習は10月15日からスタートしました。前回2年生の時の実演会では、「集団行動」には参加できず、「エッサッサ」にすべてを懸けました。演技が終わった時に先輩から「よく頑張った」と声をかけていただき、涙が止まりませんでした。今回は140人の寮生の他に、寮の出身者なども加わって、170名が参加する予定です。先輩、後輩の縦のつながり、さらには横のつながりも活かして、伝統の演技をつくっていききたいと思います。基本動作は先輩たちから教わったものに、自分で話し合いながら少しアレンジを加えます。「エッサッサ」の練習は基本姿勢を保つだけでもとても辛く、その困難に立ち向かい、耐えて苦しいところに自分から進んでいかなければ、満足できる演技ができません。今回は指揮者として号令をかける立場です。踏ん張りどころでは壁となって、皆の苦しみや辛さをも何もかも全部受け止める気構えでいます。私たちの演技で、皆さんの心を動かすことができるよう、生懸命がんばります。

ボクらの抱負

**伝統ある
体操部108名
全員が主役です。**



体操部主将(4年)

渡邊 詳

私たち体操部は、現在部員数108名、集団美を追究して日々練習に励んでいます。今年の7月にはオーストラリアで開催された世界体操祭で演技を発表しました。その大会でのハイレイトでもある「F・G」ガラ「世界各国の選抜チームが出演でも演技発表し大好評を博しました。今回の実演会はその時の演技構成を中心として作成しました。転回運動をメインとして、組み立て体操やスティーディーな隊形変化等見せ場の多い作品に仕上がっています。「体操ってこんなに素晴らしいものだ」と感じていただけたら、私たちは満足です。

実は部員のほとんどが大学に入って体操を始めた者ばかり。高校までは野球・サッカー・バレーボールなどで活躍していても、体操では体の使い方は違います。アクロバティックな高度な技術もあり、練習を重ねて試行錯誤しながらやってきました。その成果がこのプログラムに集約されています。

12月24日に実施されます、我々独自の発表会でもある「体操祭」も控えており、それに先駆けての実演会では、ますますチームの気持ちが高まっている時なので、最高の演技をお見せすることができると確信しております。期待してください。



第48回体育研究発表実演会 実施要項

＜テーマ＞ 漲力(みなぎる)

■実施会場

【東京大会】平成19年11月30日(金)有明コロシアム

【香川県大会】平成19年12月13日(木)高松市総合体育館

【岡山県大会】平成19年12月14日(金)岡山県総合グラウンド体育館

【広島県大会】平成19年12月15日(土)広島県立総合体育館

【山口県大会】平成19年12月16日(日)山口県維新百年記念公園スポーツ文化センター

■演技種目(順不同) / オープニング / チアリーディング / セパタクロー / 体操 / 少林寺拳法 / 集団行動 / みんな一緒に / 新体操 / 伝統芸能(大田楽) / トランポリン / スポーツを[見る、観る] / 体操競技 / ダンス / エッサッサ / ファイナレ

■問い合わせ先 学生生活課 Tel.03-5706-0904 (平日 8:30～16:30)

特集・実演会

【あの頃の思い出】

日体大を創り上げていく
エネルギーに
満ち溢れていました！

第1回実演会が開催されたのは、私が大学3年の1954年でした。そのきっかけは、2年前の1952年、日本が戦後初めて参加したヘルシキ五輪で竹本先生(故竹本正男名誉教授)が銀メダルを獲得、さらに翌年の54年に体操世界選手権で同じく竹本先生と学生の私が金メダルを獲得したことで、「日体大はメダリストを輩出す



る大学」として、躍注目されるようになったのです。とはいえ、当時の日体大はまだ小規模で、将来の飛躍を期するためには校名をさらにPRする必要がありました。そこで、世界選手権から凱旋した竹本・河野・池田の3選手の報告と教員の研究発表を兼ね、東京都体育館で第1回体育研究発表実演会を開催したのです。

翌55年の第2回からは、プログラムの準備など運営面全てを学生が中心に行うようになり、田園コロシアムで開催したのですが、1万5千人という観客の多さにびっくりしましたね。プログラムは学友会のクラブ単位の演技が中心でしたが、寮生など一般学生も全員参加して2人も欠席者はいませんでした。学生、教職員が「日体大を創り上げていこう！」という心意気でしたから。



第1回出場者
池田 敬子 名誉教授

日体大独自のものをということでした「花笠音頭」がつくられたのもここからです。

地方での実演会も2回目からですが、メディアが発達していない時代、「ぜひ地元の人たちに金メダリストの演技を見せたい」という北海道にいる卒業生からの要望にお応えすると共に、何とか地方の高校生に日体大をアピールしたいという思いから始めたのです。両館・札幌・旭川で6日間開催しましたが、雪の中にもかかわらず地元の日体大卒業生が駆け付け、捻り鉢巻きで準備してくれたのは本当に嬉しかったですね。だから私たちも、どんな悪条件でも「流」のを見せたくて、持てる力を全て傾けて臨みました。当時は地元と私たちは互いに情熱で繋がり、一体となっていましたね。





私の専門はスポーツ生理科学で、論文では今まで動物実験が主体でしたが、最近では実際に競技者を対象とした実験が多くなり、ま

す。私の専門はスポーツ生理科学で、論文では今まで動物実験が主体でしたが、最近では実際に競技者を対象とした実験が多くなり、ま

私は小学校から大学までずっと陸上競技を続けてきました。私の母校・国立韓国体育大学は、エリートスポーツに力を入れ、韓国を代表するオリンピック種目の選手を養成しています。高校のインターハイ優勝者やその年のランキング1位、2位の選手が、各種目から選ばれて入学します。私の在学当時、韓国はまさに体育王国でした。ロサンゼルスに続いてソウルオリンピックでは10種競技に出場しましたが、8種目の棒高跳びで大怪我をし、大学4年で現役を引退しました。その後、アメリカ留学を経て、スポーツ生理学を学ぶために日体大の大学院に進学しました。

1986年、韓国で開催されたアジア大会で日体大の堀居昭教授にお会いしたのが縁で、堀居先生に師事して約20年が過ぎました。昨年までは運動処方研究室で非常勤講師をつとめ、大学の教壇に立つようになって今年で16年目になります。韓国とはまったく環境の違う日本に来て、いろいろな先輩や先生方にお世話になったお陰で、今の私がいるのだと思っています。

た、ちょうど今トピックスになっている、高齢者や介護の分野での活動もしています。学部では運動処方とトレーニング学の授業をもっています。年間約1000人、2年生のほとんどを教えています。博士号も取得し、今年から大学院生も指導しています。また大学院で直接指導教員として教える立場にはないものですが、各先生方とのコミュニケーションをとりながら、学生の面倒をみつづける気持ちは半年過ぎたという感じです。

現在、私の学系の大学院生は2年生だけでも20名います。トレーニング科学系はスポーツ推薦で、非常に競技力の優秀な大学院生が入ってきます。今まだ現役をやっているわけですから、そういう意味では私自身の経験からも、彼らの立場をよく理解しているつもりです。私は大学院生たちには、同じ研究者の立場として先輩と思っても決して先生とは思わずに話しています。先輩として怒るときは、シラになるからお互いがよく分るのだと。学部生にとって大学は、半社会人として、社会人になるための準備をするところ。未熟な部分は先生が手足になって教えます。しかし、大学院はドクターに進むための論文の書き方を習う場所。学生は自分自身で準備をして臨まなくてはなりません。学会で発表しなければ、面倒をみないといっています。堀居教授の下で学部のゼミ生を指導しながら、人間として教育が大事だなと改めて思いました。彼らは、様に社会に貢献したいという目標を立てました。それなら、高齢者向けの運動指導や、スポーツ関連の介護予防の指導ができるのではないかと話

したところ皆がそれを目指して3年生で全員「健康運動実践指導者」に合格しました。大学の授業はコミュニケーションが大切です。一方通行でなく、オリエンテーションを行ってお互いの約束ごとを確認しています。私は大学で体育について学んだ学生達の出口を、学生たち自身が選べるだけの力をつけさせることが教員の仕事だと考えます。お陰様で今年8人全員就職も決まりました。彼らがこれからどうするかは、本人たちが決めることです。私自身のこれからのテーマは、これまでの研究分野でもあるトレーニング処方です。それぞれの競技に合ったトレーニング方法の理論が世界的にまだ確立されていません。競技者である学生を通して研究し、その結果は被験者となった学生たちにフィードバックして、トップ選手をより強くさせていきたいと思っています。

PROFILE ● ふん じんかん

1966年生まれ。韓国・ソウル市出身。

- 大学院トレーニング科学系
- 日本体育大学大学院
体育学研究科修士課程修了
- 博士(体育科学)



大学3年次の陸上競技部の合宿。写真右端が黄先生。

社会体育学科

黄 仁官 助教



それぞれの競技に
合ったトレーニング方法
を研究し、日体大の
トップ選手をより強く
させていきたい。



日本運動生理学雑誌などに発表された主な論文。教科書でもある『運動処方のための理論と実践』(共栄出版社)は、恩師・堀居昭教授との共著。

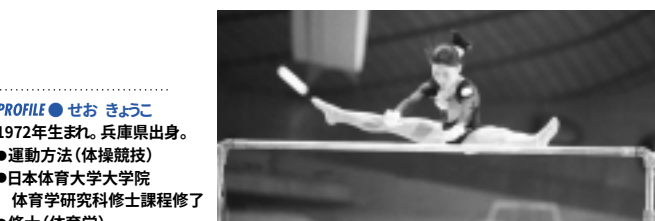


その当時から跳馬は前向きに走って飛ぶのが主流でしたが、側転で両足を閉じて浮き上がる「ロンドアート」から踏み切り板を踏んで、後ろに手をついて飛ぶという方向へ変え

私の現役時代で最も印象深い試合は、1990年に北京で開催されたアジア大会です。1988年のソウルオリンピックで日本代表選手になりましたが、開催の直前で怪我をして、現地に馬で行きました。試合に出ませんでした。その苦い思い出の後に跳馬で1位のメダルを取ったのがアジア大会です。当時は朝日生命体操クラブで練習をしていました。7歳の頃から地元兵庫で体操を始め、父の転勤で東京に移り、朝日生命体操クラブに入ったことが、私の体操人生の大きな転機になりました。妥協しない厳しい練習の中で、辛いこともありましたが、それだけのことが返ってきたので、やりがいがありました。指導者としての私は厳しいタイプだと自負していますが、それはこの時代に培ったものだと思っています。

ていかなければ、世界を舞台に戦えない傾向にありました。そこで、跳馬の技の基本的なものを研究発表していきました。大学院修了後は、日本オリンピック協会の研修派遣に参加することができ、私は2年間アメリカで指導者の勉強をしました。生徒は小さい子どもたちが中心で、スキップが日本の子どもたちよりも多くて、片言の英語でも十分理解してくれました。研修を終えて日本に帰国すると、朝日生命体操クラブで教えることになり、ここでは全日本のトップ選手たちに直接自分で経験したことを伝えることができ、5年間が過ぎました。現在、日体大で授業を持つようになって1年半、学部1年生の「器械運動」と3年生の「体育科指導法」の授業を担当しています。アメリカと朝日生命体操クラブでの7年間の指導経験が、今に繋がっていると思います。私が小柄ということもあって、あまり学生が先生として見てくれないところは、いい面でもあり、悪い面でもあります。でも、学生たちはかなり真面目な態度で授業を受けてくれます。

という短い期間で二人の選手にとりて、何が一番大切なのかというところを見つけていくことが大切です。体操が好きだからという選手には、もっと楽しんでもらえるように、競技者として記録を目指す選手には技術を上げてもらわなければなりません。



1991年ユニバーシアード競技大会。会場は国立代々木競技場
写真提供 / 共同通信社

体育学科 瀬尾 京子 助教



ジュニアに負けない 競技レベルの向上！ 体操競技部の 目標です。



全日本学生体操競技選手権大会にて男女ともに団体優勝。
前列中央が瀬尾先生。

PROFILE ● せお きょうこ
1972年生まれ。兵庫県出身。
●運動方法(体操競技)
●日本体育大学大学院
体育学研究科修士課程修了
●修士(体育学)

26年ぶり。悲願、ついに達成!

【PROFILE】●くぼい・ひろと●

1985年・香川県生まれ。

身長／190cm、体重／76kg

坂出工業高校。

主な戦績：平成19年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦男子1部優勝、同リーグ戦最優秀選手賞
ポジションはレフト、最高到達点は335cm。休日は渋谷に買い物に出掛けることが多い。今まで遠征で訪れた国で印象的だったのはオーストラリア。好きな言葉は高校時代の恩師が常に口にしていた「不可能と定めない限り、敗北はない」。



古豪復活を目指した日体大バレーボール部に遂に栄光がやってきた。実に26年ぶりとなる秋の関東大学リーグ戦での優勝!そして最優秀選手に選ばれたのが主将としてチームを牽引した窪井君である。レフトから繰り出される豪快なスパイク、そして最後まで勝負を諦めない精神力が武器の窪井君に、優勝の喜びの声やバレーボール観、今後の進路などについて聞いた。

[バレーボール部]

窪井 大登

(体育学科・4年)

―秋のリーグ戦では悲願の優勝、そして最優秀選手賞も獲得しました。

窪井●優勝が決まった試合ではプレッシャーもありましたが、全員が持つ力をすべて出せたと思います。優勝の瞬間、これまでの辛かったことや厳しい練習などが報われたと思うと自然に涙が出てきました。最優秀選手賞はチームメートが取らせてくれたと思っています。本当に皆に感謝しています。ただこの優勝に満足することなく、インカレでも優勝を狙います。まだチームには課題も残されていますが、インカレまでにその課題も解消して、万全の状態で試合を迎えたいと思っています。

―窪井さんがバレーボールを始めたきっかけは何だったのでしょうか。

窪井●地元で盛んだったこともあり、中学に入学した時点で始めました。その頃にはすでに身長が180センチくらいあったと思います。両親がバレーボール経験者であったことで、競技自体に親しみやすいイメージを持っていました。

―中学時代から全日本選抜チームに選ばれていたそうですが。

窪井●チームとしては県大会でベスト8くらいだったのですが、自分を評価していただいて選抜チームに入ることができました。全国レベルの選手たちとの練習や、海外遠征に行ったことがその後の競技人生に影響を与えてくれました。高校時代には全国大会に出場することが出来たのですが、さらに高いレベルを目指したいとの思いから日体大を進学先を選びました。森田淳悟先生の下で、自分の力がどれだけ伸ばせるか、楽しみと不安を同時に感じていたことが思い出されますね。

―大学生活はどんな感じでしょうか。

窪井●合宿所生活は厳しいですが、礼儀や規律など人間的には非常に成長させてくれる場です。授業も興味深いものが多く、他のクラブの学生たちとの交流も自分にとっては貴重でした。東京に来た当初は、電車の乗り方も分からず、人の多さに苦労したことも、思い出のひとつですね。

―バレーボールを辞めたいと思ったことはないですか。

窪井●自分のプレーで伸び悩んだときなどは、何度か辞めてしまいたいと思ったこともあります。ただ、友人や先輩そして指導者の方に恵まれたおかげで、何度かその困難を乗り越えることができました。結果的に競技から離れなかったのは、結局バレーボールが好きだったからだと思います。自分の思い描くプレーが出来たときには強い充実感を感じます。

―最終学年ですが就職については。

窪井●実業団に進んで、競技を続けるか、それとも教職の道へ進むか、本当に悩んだのですが、最終的には地元へ戻って教職の道を選択しました。生徒たちとともに全国大会を目指し、さらには世界へ通じる選手たちを育てていきたいと思っています。日体大バレーボール部同様にチームワークが良く、何でも言い合える雰囲気を作りたいです。

―日体大を目指す後輩たちにメッセージをお願いします。

窪井●目的を持たずに大学に来てても意味のない四年間あるいは二年間を過ごすことになってしまいます。何か一つでもいいから自分はこうしたい、これをやりたいという目標を持って日体大を目指して欲しいです。目的を持った学生に対しては、それを後押ししてくれるパワーが日体大にはあると思います。

(10月15日、横浜・健志台キャンパスにて)



剣道の良さは全部。 多くの人にその魅力を伝えたい

剣道部女子主将としてチームを牽引する宮内さん。新しい挑戦に対して、積極的に取り組む姿勢は他の部員たちの良き見本となっている。そんな宮内さんに、剣道の魅力や将来の夢を聞いた。自らの剣道のスタイルと同様、真摯かつ一直線な答えが返ってきた。

【剣道部】

宮内 愛

(武道学科・4年)

—宮内さんが剣道を始めたきっかけを教えてください。

宮内 ● 小学校3年生のときに近所の方のすすめもあって始めました。水泳など他の競技もやっていたのですが、中学入学と同時に剣道一本にしました。3年生のときに初めて全国大会に出場したのですが、他県のレベルの高さに驚いたのを覚えています。でもそのショックもあって、もっと強くなりたいと思いました。

—その後、山口県を離れて他県の高校へ進学されましたね。

宮内 ● よりレベルの高い環境で剣道を続けたいとの思いから、親元を離れて寮生活で高校時代を過ごしました。高校時代の思い出は、とにかく練習がきつかったということ。でもあの頃の練習が今の自分を作ってくれました。

—その後、進学先に日体大を選んだ理由は？

宮内 ● 高校時代の恩師が日体大出身だったということもあり、迷わず進学先を選びました。東京での生活も楽しみでしたし、さらに剣道が強くなれるのではという希望もありました。不安は少なかったですね。基本的に何でも前向きに考える方ですから。(笑)

—これまでの大学生生活はどんな感じてましたか？

宮内 ● 1年次から3年次まで寮に入っていたのですが、3年次には寮委員として活動する機会に恵まれました。それまではあまり人前に立つことはなかったのですが、寮の問題点や課題を他のクラブの人たちと連携して解消していくことは、とても貴重な経験だったと思います。またソフトボール部やバスケットボール部など、日本一を目標に頑張っている仲間たちの姿を見ることは、剣道にも役立ちました。授業では、3年次に伝統文化交流実習でオーストラリアに行ったのですが、現地の方が「ケンドー、ケンドー」と言って歓迎してくれたことは非常に印象に残っています。

—最終学年では主将に任命されたそうですが。

宮内 ● まさか自分が選ばれると思っていなかったのが、正直意外でした。もちろん伝統ある部の主将ということでプレッシャーを感じることもあります。自分がまず目指したのは、高い目標を持って、日々の稽古に臨むこと。それと約30人の部員全員が剣道を楽しくできる雰囲気を作るということに力を注いでいます。必要以上の上下関係は後輩たちを萎縮させるだけで、持っている力を発揮できなくなりますから。

—来春卒業となりますが就職と将来の夢についてお聞かせください。

宮内 ● 地元の山口へ戻って、刑務官の仕事に就ければと思っています。昨今、大きな問題となっている少年犯罪の増加に対して、自分の力を役立てることができればと考えています。将来的には家庭を持って、自分の子どもにも剣道の良さを分かってもらえれば最高ですね。

—日体大を目指す後輩たちにメッセージをお願いします。

宮内 ● 日体大は礼節はもちろん、一生の財産にもなる人との関わり合いが生まれる場所です。競技に没頭できる設備も整っています。私のような地方出身者も多くいます。是非、全国各地から日体大を目指して欲しいと思います。

(10月11日、東京・世田谷キャンパスにて)



【PROFILE】●みやうち・あい●

1985年・山口県生まれ。

身長／160cm

福岡南女子高校。

主な戦績：関東女子学生剣道新人大会 準優勝

全日本女子学生剣道優勝大会 3年連続出場

好きな言葉は一期一会。4年次からは学校近くに一人暮らしを始め、現在は「料理が趣味」。自分の性格は楽天的と分析するが、部全体の雰囲気を良くするために、日夜奮闘している。地元での就職希望のため、残りの学生生活を「東京に後悔を残さないよう」にすることが目標。

＜表紙を飾る＞



学外研修報告

体育社会学研究室

森川貞夫 教授

1. 期間

2007年7月30日～8月10日

2. 主たる研修目的および研修先

- (1) ISSA and ISHPES Joint World Congressに参加・発表(デンマーク・コペンハーゲン)
- (2) イタリアスポーツ事情についての資料・情報収集(トスカナ州、ミラノ、ローマ)



発表を終えて(セッションの司会・発表者たちと)



発表会場風景

3. 研修の成果

"Sport in a Global World, Past, Present and Future"をテーマとして開催された国際スポーツ社会学会(ISSA)と国際スポーツ史学会(ISSHS)との合同世界会議は、7月31日のコンハーゲン市庁舎ホールでの開会行事に始まり、8月4日の歓送パーティまで5日間、デンマーク・コペンハーゲン大学を主会場に開催されました。

私はこれまでISSAの国際会議には「一般員、Board Member」あるいは編集委員の一人として何回か参加したことがありましたが、今回のような国際スポーツ史学会との合同会議には初めての参加でした。そのせいか会議の規模・参加者数などの大きさに少々圧倒されました。公用語も従来とは異なり英語のみというのもEU圏の拡大とグローバル化の影響、とりわけアメリカを中心とする「文化的帝国主義」の傾向を強く感じました。

私の発表は最終日の8月4日、午前10時10分～12時まで

のSession 41"Media Sports, Globalization and the Market"で私をふくめた5人の演者で行いました。発表題目は"The Commercialization of Sports in Japan and the Problems of Universal Access to the Broadcasting"(発表題目参照でパワーポイントを用いたのOral Presentation)でしたが、用意していた動画(ビデオ)が使用できずやむを得ず固定画面で行いました。技術スタッフとの十全の準備にもかかわらずいざ本番となるとこういうことがまあるものであらかじめフルペーパーを50部プリントアウトして用意していたおかげでどうにか発表・質疑応答も終えることができました。

発表の内容は衛星放送やデジタル化によるマルチチャンネル、マルチメディア化が進む中でオリンピック大会やワールドカップ・サッカーなどのビッグ・スポーツイベントの放映権争奪戦が進むが、そのことが放映権の高騰化を生み出し、同時に独占的な有料放送のみの放映等による多くのスポーツ愛好者が見たい番組が見ることができなくなるおそれ

が生じる。それを放送法などによって規制をくわえることは是非、国民が「見たいスポーツ番組が自由に見ることが出来る権利」(ユニバーサルアクセス権)の問題をヨーロッパと比較しながら日本におけるスポーツの商業主義化との関連で問題点・課題等について検討を加えたものです。

質問には日本でのスポーツ改革の主たる課題は何かというのがありました。当初の予想よりは日本への関心も以前に比べて増大しつつあるという印象を受けました。今後は積極的に日本の状況を世界に向けて発信していく必要が大いにあると痛感しました。そのためには絶えず国際的動向に注目し、日頃から情報の収集と研究者たちとの交流を維持し発展させていくことが大事だと痛感しました。今後はますます英語を中心にしたコミュニケーション能力の拡大が研究者に求められていくのも必ずではないかと思われま。そのため対策も個人任せではなく大学・学会等でも組織的な対策を講じる必要があるのではないかと考えられます。



野外での交流会(キング・パークにて)

発表題目「日本におけるスポーツの商品化とユニバーサル・アクセス権問題」(要約)

オリンピック(Olympic Games)やワールドカップサッカーなどに象徴されるように今日の高度化したスポーツはますます商品価値を高めている。こうしたスポーツのメディア・バリューの高まりはテレビ放映権の高騰を招き、そのことが同時に放映権獲得競争を激しくしている。その結果、放映権を獲得したテレビ局による独占的なテレビ放映によって一方では「見たいスポーツ番組を誰でも自由にアクセスできる」というユニバーサル・アクセス権を侵すことになる。しかしイギリスをはじめとするEU諸国では放送法によって指定された特別リストによってワールド・カップサッカー決勝やオリンピック開会式その他重要なスポーツ・イベントは誰でもがフリーで見ることができるようになる。ユニバーサル・アクセス権を擁護しようという力が働いている。

しかし日本では現在の放送法にはそのような規定はない。問題はユニバーサル・アクセス権が多く、スポーツ愛好者国民によって主張されるほどにスポーツが国民にとって必要不可欠な文化的価値として社会的に認知されているかどうかということである。競技団体は真の意味で国民的基盤の上に自らのスポーツの普及・発展をめざすという理念もきわめて薄く、ただ現状の進展に埋没している状況である。こうした状況を放置したままではいずれは一般国民との乖離、テレビなどの露出度の高いスポーツのみが偏った形で発展せざるを得ず、結果としてスポーツそのものの文化的価値は高まらず、ユニバーサル・アクセス権は国民的規模では問題にならないであろう。

学外研修報告

発育発達研究室

津山 薫 助教

私は短期学外研修により2007年7月6日から16日までの間、フィンランドのヘルシンキ大学(写真1)、タンペレ大学(写真2)、ユバスキュラ大学(写真3)の視察と「12th Annual Congress of the European College of Sport Science(以下、ECSsとする)」に参加し、研究発表を行いました(写真4)。

フィンランドは豊かな森と湖のある国として世界に知られていますが、Information Technology(I-T)の活用も非常に進んだ国であり、留学生が多い国でもあります。

今回、私はフィンランドで伝統のある3つの大学の視

察をしました。特にユバスキュラ大学はFaculty of Sport and Health Sciences(写真5)を有しており、視察した3つの大学の中で私が最も関心をもった大学です。ユバスキュラ大学は森と湖に囲まれた非常に恵まれた場所に位置しており、今回のECSsの大会長でもあるDr.Komiが所属している大学です。私は実際にFaculty of Sport and Health Sciencesの中を視察することができ、研究室、体育館、トレーニングセンター(写真6)、屋外のグラウンド(写真7)等を見ることができました。非常に貴重な経験をする事ができたと思います。



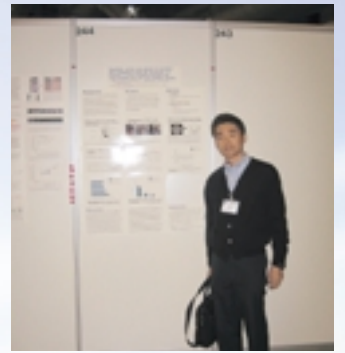
(写真3)



(写真2)



(写真1)



(写真4)



(写真5)



(写真6)

一方、学会(ECS)は7月11日から14日の間、ユバスキュラにあるJyväskylä Paviljonki International Congress and Trade Fair Centre(写真6)で開催されました。ECSはスポーツ科学の学会の中ではアメリカで開催されるAmerican College of Sports Medicine(ACSM)と同様に、非常に大きな学会で毎年、世界各国から多くの研究者が参加します。特に今年の大会は発表演題が約1400で60カ国からの参加者があり、これまでのECSの中でも最も演題数が多かったとのことでした。

私が本学会に参加した理由としては、これまで継続して実施してきた「スポーツ選手の頸部筋力に関する研究」を世界に広めたかったこと、頸部筋力に関する研究に取り組んでいる研究者(Dr.Yinen, Finland)との交流を深め、討論したいと思ったからです。実際に私はDr.Yinenの発表「Effect of exercise therapy in neck disorders」を聞くことができた。その後彼と頸部筋力の研究に関して話をすることができました。さらにDr.Yinenから私の研究「Specificity of the neck muscle in wrestlers and weight lifters from the perspective of isometric cervical extension strength and cross-sectional area of neck extensor muscles」について貴重なコメントを頂くことができました。また、私の研究についても非常に興味を示してくれ今後、研究を進めていく上で良い機会を作ることができたと思います。

その他にも世界で活躍する研究者、特にイギリスのDr. Naticcの発表「Muscle weakness in old age: How much this originates from the muscle itself」を聞くことができた。Dr.Naticcは多くの論文を世界に発表している研究者ですが、本学会で彼の発表を実際に聞くことができ、最新の研究データや研究の進め方など多くの事を学ぶことができました。

さらにシンポジウム「Physical activity, sedentaryness and obesity among children and

youth」では、ヨーロッパにおける子どもの肥満の問題が取り上げられ、おもにその現状と予防策についての討論がなされました。日本でも子どもの肥満や体力低下の問題はしばしば取り上げられていますが、この問題は日本だけではなくヨーロッパにおいても深刻な問題であることを改めて実感しました。

その他としては、日本でも盛んに研究がなされている高齢者に関する研究発表もあり、非常に興味深く聞くことができました。

現在、日本は高齢化が進んでおり2006年10月の時点での高齢者(65歳以上)の割合は20.7%であり、すでに5人に1人が高齢者という社会が到来していますが、この高齢者の割合は今後ますます増加していくことが予測されています。したがって、我々は高齢者の健康づくりを真剣に考えていく必要があります。さらに我々は高齢者だけでなく将来、社会を担う子ども達にも目を向け、子どもの体力向上と運動習慣の確立を目指す必要があると思われます。これらは今後、我々が取り組んでいかなければならない重要な研究課題の一つであります。今回のECSを通して、これらの問題の重要性を改めて実感しました。

私は今回、学会(ECS)に参加したことにより、世界におけるスポーツ科学研究の現状を知ることができたと同時に、世界各国の研究者がさまざまな研究課題に積極的に取り組んでいる現状をみることもできました。私も研究者の一人として今後も積極的に研究に取り組む、その成果を二つでも多く世界に発信していきたいと思っています。また、研究活動で得られた最新の情報を講義等を通して学生に伝えていく努力を続けていきたいと思っています。

最後に、短期学外研修を通して普段の生活では経験することのできない貴重な経験をする事ができ、さらにスポーツ科学に関する最新の情報を得ることができました。今回、得られた貴重な経験と情報を今後の学生の教育と研究につなげていきたいと思います。



(写真7)



(写真8)

ための食事トレーニング 第3弾!!!

このコーナーでは、皆さんのすぐ身近にある健康問題やスポーツに関する疑問に焦点をあてて、シリーズで紹介しています。

第4回目の講師は、前回、前々回に引き続き、本学スポーツ局の安達瑞保さんです。安達さんは駅伝をはじめ、多くの運動部の栄養管理や食事指導を行い、記録や結果を追い求めるアスリート達をフルサポートしています。そのような最前線の現場サイドの見地から、体力・競技力向上のための栄養・食事の取り方について教えてもらいます。



スポーツ局 医・科学サポートスタッフ
管理栄養士

あだちみずほ
安達 瑞保

ポイント1 コンディショニングのための バランスが良いこと

「試合の時は何を食べたら良いですか?」スポーツ選手によく聞かれる質問の一つです。試合だからと言って、何か特別な食品を用意したり、手の込んだ調理が必要になったり、ということはありません。試合前の食事で大切なことは①コンディショニングのためのバランスが良いこと、②試合に向けて、エネルギーをしっかり補給すること、③胃腸の負担にならないこと、④試合開始時間に合わせた食事内容にすること、⑤リカバリーを意識すること、これら①～⑤のポイントをおさえた食事が試合に向けた「基本の6皿」スペシャル編です。

大事な試合に良いコンディションで臨むためには、特定の栄養素だけではなく、エネルギー源を作る栄養素、体の調子を整える栄養素を過不足なく摂取できる食事が理想です。試合だからと特別なことをするのはなく、普段から心がけて「基本の6皿」で食事を組み立てる事が大切です。

ポイント2 試合に向けて、エネルギーを しっかり補給できること

エネルギー源を筋肉や肝臓に蓄えておくため、炭水化物をしっかりと補給しましょう。グリコーゲンローディングという言葉聞いたことがありますか?練習メニューと食事内容を調整し、より多くのエネルギー源(グリコーゲン)を蓄える方法です。食事面では、試合1週間前から4日前までは基本的なバランスの良い食事、試合3日前～当日は、主菜の量を少し少なめにし、炭水化物の摂取量が多くなるよう配慮します。『基本の6皿』では、米やパン、麺類などの主食にあたるメニューが炭水化物補給源のメインメニューです。例えばメニュー例のように、「ご飯とうどん」のように、主食を2品にする、イモ類でも炭水化物が多く摂取できるので、副菜をジャガイモのトマト煮やマカロニサラダなどにしてみ

ても良いでしょう。寮などで献立が決まっている場合は、いつもより主食のご飯を多く食べるようにすると、エネルギー源をしっかりと補給でき、車に例えるとガソリンが満タンになった状態で試合に臨むことができます。

ポイント3 胃腸の負担にならないこと

試合前は「絶対に勝つぞ!」「ミスをしたくないようにしよう!」と緊張感が高まるものです。胃腸も普段と違い敏感になりやすくなるので、食事内容に配慮しなければ大事な試合前にお腹が痛くなる可能性があります。胃腸に負担をかけないために、消化に時間のかかる脂肪の多いもの、食物繊維の多いもの、辛いもの、香辛料をつかったもの、生ものは控えるようにします。脂肪の多いものには、脂身の多い部位の肉、脂の多い種類の魚、揚げ物のように油をたくさん使う料理などがあります。揚げ物は、揚げ衣が油を吸うため、夕食に食べると翌朝になっても胃腸がすっきりしないといった状態になりやすくなります。また、食物繊維が多いものは消化に時間がかかるうえ、ガスがたまりやすく、お腹がはてしまうと、パフォーマンスに良い影響を与えません。胃腸への刺激となる辛いもの(香辛料をつかったもの)や、試合が間近になってお腹が痛くなるようなことがないよう、生ものは控え、しっかりと加熱調理をしましょう。消化を良くして胃腸に負担をかけないために、食事はよく噛むことを意識することも大切です。しっかりと噛んで食事ができるよう、食事時間にゆとりを持ったスケジュールにすることも試合日のポイントになります。

ポイント4 試合開始時間にあわせた 食事内容にすること

食べたものが胃の中に残らないよう、消化時間を考えて食事をしましょう。通常の食事は少なくとも3時間前には済ませるように食事時間の計画を立てても、試合会場が遠く、朝食を食べる時間が普段よりかなり早い時間になってしまふ場合は、会場に到着してから、試合開始までの時間を考えて準備します。3時間以内に試合が始まるようであれば、消化がよく、速やかにエネルギー補給ができるよう、補食を準備しておきましょう。さらに試合開始まで時間がない場合は、より吸収の速やかなものを利用します。図1の試合までの食事の流れを参考にし、当日までにしっかりと計画を立て、シュミレーションをしておくとう安心です。例えば、競技にあてて1日に予選、準決勝、決勝というように続けて試合がある場合も、次の試合までの時間を考えて補食を用意しておきましょう。補食でおにぎりを作って持っていく場合、いつもは3個のおにぎりを作る。ご飯の量で、4個作るように、1個の大きさを小さめにしてラップに包んで用意すると、補食として食べやすくなります。



実践! 強くなる食生活 スポーツ選手の

試合終了後は、まず試合で消耗したエネルギーを補充することを忘れないようにしましょう。翌日もしくは1週間後に試合が控えている場合、その試合に向けての食事調整はすでに始まっています。疲労を残さず、次の試合を良いコンディションでむかえるため、『基本の6皿』を意識したバランスの良い食事です。しっかり調整することが大切です。試合後に速やかに食事をとることで、ライバルに差をつけましょ

ポイント5

リカバリーを意識すること

試合当日におすすめの補食 —エネルギー補給—	
①おにぎり ②サンドイッチ ③カステラ ④あんまん、肉まん ⑤あんパン (カレーパンやデニッシュは脂肪が多いのでおすすめではありません)	※①～⑤は試合開始直前、2～3時間ある場合
⑥フルーツ (バナナ、オレンジ、グレープフルーツなど) ⑦飲料(100%ジュース、スポーツドリンク) ⑧エネルギーゼリー ⑨鮎	

図-1

試合前のポイントをおさえた食事	
試合3日前 試合2日前 試合前日 試合当日 ◆試合開始3～4時間前	「基本の6皿 スペシャル編」 (前日夕食のメニュー例) ご飯・味噌汁(じゃがいも・豆腐・長ねぎ)・豚肉の生姜焼き・マカロニサラダ・ほうれん草の和え物・フルーツ・ヨーグルト (試合当日メニュー例) 試合開始11時～試合開始7時の朝食 ご飯・うどん・温泉玉子・納豆・トマトサラダ・フルーツ・牛乳
速やかにエネルギー補給ができる食事	
◆試合開始2～3時間前	補食 おにぎり、あんパン、カステラ、バナナなど
◆試合開始1～2時間前	補食 バナナ、エネルギーゼリー、鮎、スポーツドリンクなど
試合中	※試合前・中・後の水分補給を忘れずに (学報NITTAIDAI15号P.10参照)
リカバリーのための食事	
試合終了後	—1日に2試合以上ある場合— エネルギー補給のための補食 一次の試合が翌日以降の場合— 「基本の6皿」

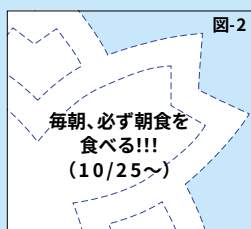


図-2

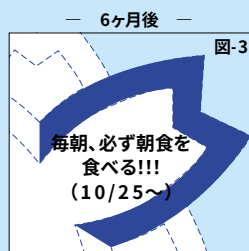
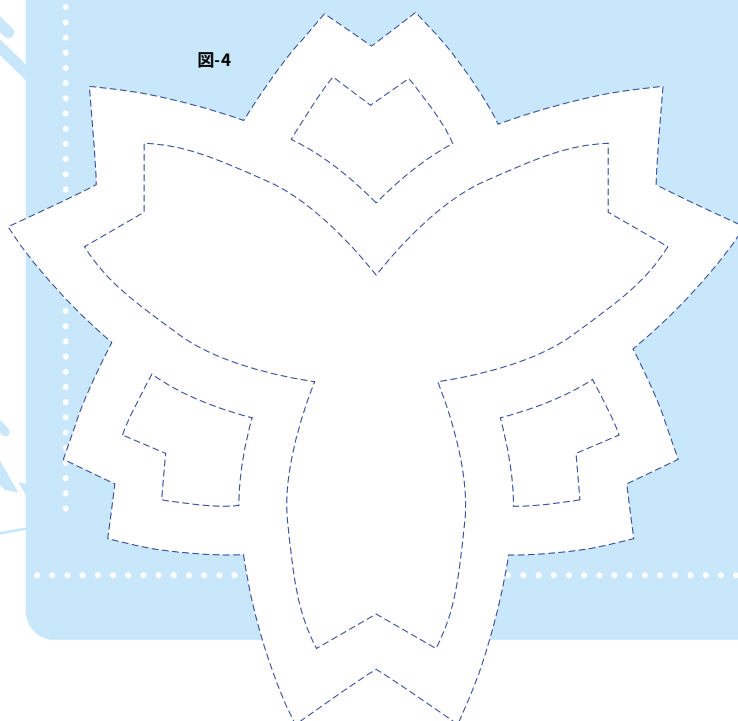


図-3

図-4



シンボルマーク 第3弾! 継続し完成させよう シンボルマーク

スポーツ選手は「優勝する!」「自己ベストを更新する!」といった競技に対する目標を持つことが大切です。食生活においても同様に、目標なくして計画、実行は成り立ちません。そこで、シンボルマーク第3弾は、『継続し、完成させよう シンボルマーク』です。競技における目標を見据え、食生活において大切なことは何か考えてみてください。例えば、「優勝する!」という競技の目標を掲げた場合、そのためには何が必要かを考えます。「体を大きくすること」が必要だった場合、体を大きくするためには「しっかり食事をする」ことが大切です。そこで、具体的にどういったことが必要かを考え、それを皆さんの食生活における目標とします。ただし、目標を考えただけでは体は大きくなりません。考えた目標を日々意識し実行することで、継続につながります。図-4のシンボルマークは、まだ真っ白で未完成です。皆さんが考えた食生活における目標を継続し、6ヶ月後に青く緑取り完成させましょう!

(使い方)

- ①食生活について、自分の目標を6つ考える。
例) 毎朝、必ず朝食を食べる!!!!
- ②考えた目標を、図-4の6枚の花びらにひとつずつ書き込む(図-2)。
- ③シンボルマークをコピーして切り取り、目のつく所に貼る。
例) 冷蔵庫、手帳、練習日誌など
- ④—6ヶ月後—
継続できていた目標については、その目標が書いてある部分の花びらの縁を青く塗りつぶす(図-3)。

学友会・クラブ情報

クラブ名	大会名	大会名	氏 名
■アーチェリー	北京五輪テスト大会 関東学生個人選手権 全日本学生個人選手権 アジア選手権 秋田国体	女子決勝ラウンド1、2回戦 30位 女子優勝 女子3位 男子2位 女子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	早川 遼 (3年) 新田智訪 (2年) 上島あゆみ (2年) 小野剛輝 (2年) 早川 遼 (3年) 新田智訪 (2年) 長岡光江 (2年) 清田晃輝 (3年) 濱信彦 (2年) 濱信彦 (2年) 濱信彦 (2年) 濱野早紀 (4年) 久保直也 (1年) 濱野早紀 (4年) 砂川貴洋 (2年)
■ウエイトリフティング	全日本学生個人選手権 秋田国体	男子50メートル自由形 優勝 (大会新) 男子1500メートル自由形 優勝 男子400メートル個人メドレー 優勝 (大会新) 男子400メートルリレー 優勝 (大会新) 男子100メートルバタフライ 優勝 男子200メートル個人メドレー 2位 男子800メートルリレー 3位 女子50メートル背泳ぎ 6位 女子200メートル背泳ぎ 優勝、女子100メートル背泳ぎ 優勝 女子100メートル背泳ぎ 4位	大友麻衣子 (4年) 野村匡仁 (1年) 牛島愛 (3年) 花山千宏 (4年)、牛島愛 (3年) 本田陸 (2年) 古川翔 (1年) 仁木康浩 (3年) 平賀大 (2年)、小笠原龍 (4年)、本田陸 (2年)、那須翔太 (4年) 金孝幸 (1年) 仁木康浩 (3年)
■カヌー	秋田国体	女子成年 フラットウォーターレーシング・カヤックシングル (500メートル) 7位 男子フラットウォーターレーシング・カナディアンシングル (200メートル) 優勝 女子フラットウォーターレーシング・カヤックシングル (200メートル) 5位	田部井恵理 (2年) 田部井恵理 (2年) 田部井恵理 (2年) 原口泰博 (4年)、西梅尚史 (4年)、志賀諭 (4年)、木村俊介 (4年) 柳瀬浩喜 (3年)、松本宗 (3年)、伊禮寛 (3年)、柳瀬彰良 (1年)、 染谷将利 (2年)
■空手道	秋田国体	男子普及スクラッチ 優勝 女子スプリント 3位 女子チームスプリント 3位	水島豊 (4年)、江川克彦 (3年) 狩野友昭 (4年) 上野太助 (2年)
■ゴルフ	関東大学男子対抗戦	男子50メートル自由形 優勝 (大会新) 男子400メートル個人メドレー 優勝 (大会新) 男子400メートルリレー 優勝 (大会新) 男子100メートルバタフライ 優勝 男子200メートル個人メドレー 2位 男子800メートルリレー 3位 女子50メートル背泳ぎ 6位 女子200メートル背泳ぎ 優勝、女子100メートル背泳ぎ 優勝 女子100メートル背泳ぎ 4位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■サッカー	ユニバーシアード大会 全日本大学選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■自転車競技	全日本大学選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■水泳(競泳)	関東学生選手権	男子50メートル自由形 優勝 (大会新) 男子1500メートル自由形 優勝 男子400メートル個人メドレー 優勝 (大会新) 男子400メートルリレー 優勝 (大会新) 男子100メートルバタフライ 優勝 男子200メートル個人メドレー 2位 男子800メートルリレー 3位 女子50メートル背泳ぎ 6位 女子200メートル背泳ぎ 優勝、女子100メートル背泳ぎ 優勝 女子100メートル背泳ぎ 4位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■水泳(水球)	ユニバーシアード大会 日本学生選手権 秋田国体	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■水泳(飛び込み)	日本学生選手権 日本選手権 秋田国体	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■相撲	東日本学生相撲個人体重別選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■セパタクロ	全日本学生選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■ソフトテニス	全日本大学対抗選手権 全日本学生シングルス選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■ソフトボール	ユニバーシアード大会	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■体操競技	W杯シリーズ・上海国際競技会 ユニバーシアード大会 世界選手権 全日本学生選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■卓球	関東学生リーグ	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■テアリーダー部	JAPAN CUP 2007 日本選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■トランポリン	全日本学生選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■なぎなた	全日本選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■軟式野球	全日本大学女子選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■バスケットボール	女子ジャパンカップ ユニバーシアード大会	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■バドミントン	関東大学秋季リーグ	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■バレーボール	ユニバーシアード大会 関東大学秋季リーグ	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■ハンドボール	関東学生秋季リーグ戦	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■フェンシング	ユニバーシアード大会	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■ライフセービング	全日本学生選手権大会	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■陸上競技	ユニバーシアード大会 秋田国体	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■陸上競技(駅伝)	関東大学女子駅伝対校選手権 出雲全日本大学選抜駅伝	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■レスリング	全日本学生選手権 全日本学生王座決定戦 秋田国体	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)
■アルティメット	学生選手権	男子個人・決勝ラウンド敗退(3回戦)、女子団体2位 女子個人 4位 男子個人 5位 男子69キロ級 3位 男子94キロ級 スナッチ 3位 男子94キロ級 クリーン&ジャーク 4位 男子94キロ級 トータル 3位	水島豊 (4年) 江川克彦 (3年) 水島豊 (4年) 四方田彩花 (4年) 中村智昭 (2年) 中村優太 (4年) 中村優太 (4年)



平成19年度「夏季」クラブの主な大会成績

スポーツ課調べ 2007年7月21日〜2007年10月17日
情報は新聞各紙(日体大スポーツ)等からの抜粋

優 学友会ブログ紹介

ホームページのリニューアルと同時に7月から開設した、クラブ・サークルのブログシステムですが、その中で優れたブログを紹介していきます。

トライアスロン部 アクセス数2064(10/16現在)

ブログ管理者コメント 松田 航介(健康学科3年)

学友会ブログを通して、関係者以外にも、これから日体大に進学を希望する人々など、様々な人たちにトライアスロン部の活動を知ってもらうことをコンセプトとして取り組んでいます。多種多様な人たちがブログを閲覧していることを意識しつつ、写真や文章を通して活動をアピールできるよう、頻繁に更新するように心がけています。

広報課コメント ブログ管理者の情熱が伝わってくる、いいブログですね。試合日程、成績はもちろんのこと、部員紹介もきれいな画像付きで掲載されています。更新も定期的なされており、マネジメントの良さが感じられます。

硬式野球部 アクセス数11888(10/16現在)

ブログ管理者コメント 須田 あや菜(女子マネージャー・体育学科3年)

古城コーチと私の二人でブログ管理をしています。試合の結果は必ずその日のうちにUPします。文章やコメントを書き込むときは、野球部員として礼儀を欠くことのないよう常に心がけています。ブログと野球部ホームページと情報の切り分けをして、上手く情報を発信していきたいです。このブログは使いやすいですね。

広報課コメント 驚異のアクセス数に感服します。試合日程、成績を丁寧にレイアウトしてとても見やすい、読みやすいブログです。また、外部リンクも上手に取り込んでいます。ブログ管理者の更新作業に頭が下がります。



TOPページからアクセス!





東京世田谷キャンパス再開発リポート!

平成19年2月26日から、第一期工事(2007年2月着工～2008年8月完成予定)が始まりました。日々、変化していく旧校舍跡に一抹の寂しさを感じつつ、新たに一步を踏み出した日体大の未来に胸を弾ませながら再開発を進めています。ホームページ(<http://www.nittai.ac.jp>)でも随時、再開発の様子を紹介しています。是非ご覧下さい。



2007.3.8 観覧席、テニスコート、倉庫 解体



2007.3.29 3号館、4号館 解体



2007.5.21 山留工事開始
(中央斜路は重機移動用通路)



[全体図]

2011年完成予定



2007.10.11 仮設乗入構台施工中



2007.8.21 仮設乗入構台完成



就職支援講座

キャリア支援センターが平成19年10月1日に始動し、笹淵五夫キャリア支援センター長のもと、これまで以上に充実した講座などを企画し、在学生そして卒業生も強力にバックアップしていきます。

	講座名	対 象	開催日	場 所
11月	マナー基礎講座	主に学部3年 短大1年	6日	健志台
	公務員講座(実習・応用編)	全学年	8日～28日	健志台
	社会福祉士国家試験対策講座	健康学科4年	11月8日～12月25日	世田谷
	就職サイト登録講座	主に学部3年 短大1年	12日 13日	健志台 世田谷
	先輩の就職活動報告会	主に学部3年 短大1年	14日 27日	健志台 世田谷
	エントリーシートの書き方講座	主に学部3年 短大1年	19日 20日	健志台 世田谷
	企業業界研究	主に学部3年 短大1年	26日 29日	健志台
	公務員全国模擬試験	全学年	29日	健志台
12月	教員採用試験模擬テスト	全学年	1日	健志台
	企業業界研究	主に学部3年 短大1年	3日	健志台
			4日	世田谷
			5日	健志台
			6日	健志台
	東京消防庁説明会	全学年	13日	健志台 世田谷
	警視庁説明会	全学年	10日 12日	健志台 世田谷
	OB/OG懇談会	主に学部3年 短大1年	11日 12日	世田谷 健志台
	神奈川県警説明会	全学年	14日	健志台
	防衛省・自衛隊説明会	全学年	17日	世田谷 健志台
	集団模擬面接講座	主に学部3年 短大1年	18日 20日	世田谷 健志台
	「何が何でも教員!」対策講座	全学年	21日	健志台
その他	冬季宿泊研修(教員対策)	学部3年	25日～27日	東京晴海 海員会館
	教員採用試験のための放課後勉強会(卒業生参加可能)	全学年	月、火、金 (基本的に授業期間) 水、木、金 (基本的に授業期間)	世田谷 健志台

※詳細はキャリア支援センターまで。

東京・世田谷
横浜・健志台
Tel.03-5706-0905
Tel.045-963-7936



駆け抜けろ! 日体大

第19回出雲全日本大学選抜駅伝競走 堂々の3位! ルーキー出口和也(1年) が区間新で2区区間賞!

悪天候の中、島根県
同窓会をはじめ、沿
道で温かい応援を送
っていただき、ありが
とうございました。



下記の大会における日体大応援ポイント等をホームページに掲載します。
母校の誇りを胸に疾風のごとく駆け抜ける選手諸君に熱い応援宜しくお願いします。

[今後の大会のご案内]

第39回全日本大学駅伝対校選手権大会

2007年11月4日(日) 8時10分スタート

熱田神宮西門前～伊勢神宮内宮宇治橋前

8区間(106.8Km)

テレビ放映:テレビ朝日系列 8時00分～13時40分

第84回東京箱根間往復大学駅伝競走

2008年1月2日(水)、3日(木) 8時00分スタート

東京・読売新聞東京本社前～箱根・芦ノ湖間

往路5区間(108.0Km)、復路5区間(109.9Km)

テレビ放映:日本テレビ系列 7時00分～14時05分(復路14時20分)

問い合わせ先 広報課 Tel.03-5706-0948



■図書館ホームページのご案内

図書館のホームページをご存じでしょうか。(http://library.nittai.ac.jp)
図書館のホームページから、図書館にある資料を探したり、新聞・雑誌の記事を調べたり、さまざまなインターネット上のデータベースを利用できます。(一部、学内パソコン限定のサービスもあります。)
朝日新聞のデータベース「聞蔵Ⅱビジュアル」を例にしますと、1945年から現在までの朝日新聞の記事を探ことができ、1985年から現在までの範囲を「日体」で探すと、11,450件の記事ができます。ほとんどの記事の全文を読むことが可能です。試合の結果なども調べることができます。

レポートや調べものなどにも、ぜひ使ってみてください。



図書館の開館時間
月～金 8:45～22:00
土 8:45～19:00
休 日 10:15～18:00
詳しくは、図書館ホームページ上、またはカウンターで配布しています
開館予定表をご確認ください。

■入試インフォメーション

- ◆入学試験を実施するキャンパスは、**横浜・健志台キャンパス**です。
- ◆一般入試実技試験種目を変更しました。＊詳しくは『平成20年度 学生募集要項(入学願書)』でご確認ください。

願書は、テレメールで 24時間受付可能です。	◎IP電話 ◎パソコン・携帯 願書請求番号	050-2015-0555(自動音声応答電話) http://telemail.jp 296885
---------------------------	-----------------------------	---

◆日本体育大学 一般入試

区 分	出願期間	試験日	合否発表日
体育学部	平成19年12月17日(月) ～平成20年1月15日(火)	平成20年 2月2日(土)【筆記】 2月3日(日)【実技】	平成20年 2月9日(土)
		平成20年 2月4日(月)【筆記】 2月5日(火)【実技】	
健康学科			
武道学科			
社会体育学科			

◆日本体育大学女子短期大学部 一般入試

区 分	出願期間	試験日	合否発表日
体育科	平成19年12月17日(月) ～平成20年1月15日(火)	平成20年 2月1日(金)	平成20年 2月9日(土)
幼児教育保育科			

□入学試験に関する問い合わせ先:アドミッションセンター 学務部入試課
事務取り扱い期間:月～金 8:30～17:00
〒227-0033 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221-1
TEL: 045-963-7955(直通) FAX: 045-963-7956(専用)

外部資金による研究補助金に関する規程の制定について

【制定の趣旨】

本学では、国等による競争的研究補助金の不正な使用への対応に関わる通知(平成18年9月4日付18文科科第420号にて文部科学省科学技術・学術政策局長)及び研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)(平成19年2月15日文科科学大臣決定)への対応の一環として、競争的研究資金制度による研究費補助金を受ける場合の管理、執行を適正に行うために「日本体育大学及び日本体育大学女子短期大学部外部資金による研究補助金に関する規程(平成19年10月17日教授会決定)」を定め、運用することとなりました。

- 以上
日本体育大学及び日本体育大学女子短期大学部外部資金による研究補助金に関する規程
平成19年10月17日
教授会決定
- (趣旨)
第1条 この規程は、日本体育大学及び日本体育大学女子短期大学部(以下「本学」という。)の教員が内閣及び内閣の統轄する行政機関(以下「政府」という。)から研究費補助金(以下、「補助金」という。)の交付を受ける場合において、その申請手続、交付決定後における経理手続等について、交付された研究費補助金の適正かつ効率的な管理、運用を確保するために必要な事項を定める。
- (定義)
第2条 この規程において「研究費補助金」とは次の各号に掲げる国等が実施する競争的研究資金制度における助成金をいう。
(1) 内閣府
(2) 総務省
(3) 文部科学省
(4) 厚生労働省
(5) 農林水産省
(6) 経済産業省
(7) 国土交通省
(8) 環境省
2 前項に掲げる補助金以外の研究費補助金の交付を受けようとする場合には、この規程を適用する。
3 この規程において「補助事業」とは、政府が行う研究費補助金助成事業をいう。
4 この規程において「研究代表者等」とは、補助事業を1人で実施する者、研究組織又は研究拠点の代表者及び研究分担者をいう。
5 この規程において「連携研究者」とは、研究代表者等の責任の下、研究組織の一員として研究計画に参画する者をいう。
6 この規程において、「直接経費」とは、補助金のうち、補助事業の遂行に必要な経費及び研究成果の取りまとめに必要な経費をいう。
7 この規程において、「間接経費」とは、補助金のうち、補助事業の実施に伴う本学での管理等に必要経費をいう。
8 この規程において、「経理規程」とは、学校法人日本体育大学経理規程を、「出張等規程」とは、「日本体育大学及び日本体育大学女子短期大学部教職員の出張等に関する規程」を、「調達規程」とは、「固定資産及び物品調達規程」を、「管理規程」とは「固定資産及び物品管理規程」をいう。
9 この規程において、「通常監査」とは、内部監査を実施する年度において、研究代表者として交付を受けた各研究費補助金の概ね10%以上を対象とした書類上の調査をいう。
10 この規程において、「特別監査」とは、通常監査を行うものに加え10%以上を対象とした研究費補助金の使用状況や納品の状況等、事実関係の確認を含む調査をいう。
(研究代表者等及び連携研究者)
第3条 本学において、補助事業の研究代表者等となることができる者は、原則として次に掲げる者とする。
(1) 教授
(2) 准教授
(3) 助教
(4) 独立行政法人日本学術振興会の特別研究員又は外国人特別研究員のうち、本学において研究を行うことにより補助金の申請資格を得た者
2 本学において、補助事業の連携研究者となることができる者は、前項第1号から3号の者及び助手とする。
(法令等の遵守)
第4条 研究代表者等は、補助事業の実施に当たっては、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」(昭和30年法律第17号)及び同法施行令(昭和30年政令第255号)並びに補助事業ごとに定められた取扱規程等及び交付決定通知書に記載された事項(以下「補助条件等」という。)を遵守しなければならない。
2 研究代表者は社会的コンセンサスが必要とされている研究及び生命倫理・安全対策に対する対策が必要とされている研究並びにライフサイエンスに関して配慮を必要とする研究分野を扱う場合は、定められた法令又は指針等により、本学の定めによる手続きを遵守しなければならない。
(研究費補助金の公募の周知)
第5条 政府から補助事業の公募の通知があったときは、掲示又は書面通知等による手段によりすみやかに周知するものとする。
(公募の申請に伴う届け出)
第6条 公募要領により補助事業に係る研究計画書又は提案書等の公募に関する書類を直接公募先に提出することとなる場合には、あらかじめ、管理部庶務課に届け出なければならない。
2 研究代表者は社会的コンセンサスが必要とされている研究及び生命倫理・安全対策に対する対策が必要とされている研究並びにライフサイエンスに関して配慮を必要とする研究分野を扱う場合は、あらかじめ管理部庶務課に届け出て本学所定の審査を経なければならない。
(研究費補助金の経理事務の委任)
第7条 研究代表者等は、公募された補助事業に応募しようとするとき及び研究費補助金の交付内定(継続分を含む。)を受けたときは、その経理に関する事務を学長に委任する。
2 学長は、前項の経理事務の委任があったときは、事務局長にその旨通知し、次条に規定する事務を処理させるものとする。
(経理事務の準備)
第8条 研究費補助金に係る契約事務、旅費事務、給与事務等の経理に関する事務の取扱いは、経理規程、出張等規程、調達規程、管理規程及びこれらに基づき定めなければならない。
(研究費補助金の預託)
第9条 研究代表者等は交付された研究費補助金を学長に預託するものとし、本学が開設する銀行口座にて管理する。
2 前項の銀行口座の名義者は学長とし、口座管理責任者は管理部会計課長とする。

- 3 預金口座は、第2条第1項に規定する研究費補助金ごとに委任するものとする。
4 学長は、研究費補助金の預託金の受払いに関する権限を事務局長に委譲するものとする。
5 事務局長は、管理部会計課長を研究費補助金の出納責任者及び検収責任者として指定する。
6 研究費補助金の交付を受けた研究者が、本学以外の大学又は研究機関(以下「研究機関等」という。)に所属することとなる場合であって、直接経費に残額があるときは、当該研究者が新たに所属することとなる研究機関等に当該残額を送金する(間接経費の譲渡)。
第10条 間接経費が交付された場合、研究代表者等は、間接経費を本学へ譲渡しなければならない。
2 間接経費に関わる権限等は、前条第4項及び第5項の規定を準用する。
3 管理部会計課長は、研究費補助金を受領したときは、すみやかに間接経費に相当する金額を、本学本会計を管理する口座に移し換えるものとする。
4 前項の研究者が、間接経費を受け入れる他の研究機関等に所属することとなる場合であって、直接経費に残額があるときは、本学は、直接経費の残額の30%に相当する額の間接経費を当該研究代表者等に返還するものとする。
5 前項の間接経費の返還に当たっては、当該研究代表者等が新たに所属することとなる研究機関等に対しその額を通知するとともに、当該研究代表者に返還する間接経費を送金するものとする。
6 第1項の研究代表者等が、間接経費を受け入れない他の研究機関等に所属することとなる場合には、当該研究費補助金の定めに基づき、未使用の間接経費を政府に返還するものとする。
(直接経費の使用制限)
第11条 直接経費は次に掲げる事項に使用してはならない。
(1) 本学の既存施設及び設備を改修することが必要となる設備等を購入するための経費
(2) 購入することにより新たに設置場所を建設若しくは構築することが必要となる設備等を購入するための経費
(3) 通常備えておくことが必要な備品を購入するための経費
(4) 補助事業遂行中に発生した事故及び災害の処理のための経費
(間接経費の使用目的)
第12条 間接経費は、補助事業の実施に伴う本学の管理等に必要経費として、本学の研究環境の改善や機能向上に活用するものとし、学長の責任の下で公正及び適正かつ効率的に使用するものとする。
(研究についての取扱い)
第13条 預託に由来した利子については、適切な方法により研究代表者等へ分配するものとする。
2 研究代表者等は分配された利子を補助事業の遂行に使用し、又は本学に譲渡する。
3 前項の規定により、本学が利子の譲渡を受けた場合は、研究費補助金の管理に必要な経費として使用するものとする。
(研究費補助金により取得した設備等の寄付手続等)
第14条 研究代表者等は、設備等を取得後所属する研究機関に寄付を行うこととされているものにあつては、取得後直ちに管理部会計課に寄付手続を行わなければならない。ただし、取得した設備等を寄付することにより補助事業の実施上支障が生じるおそれがある場合には、あらかじめ、寄付をできない理由及び期間を学長に申請するものとする。
2 寄付手続の延期の承認のあった設備等の管理は、研究代表者等が善良なる管理者の注意義務をもって行うものとする。
第15条 設備等の寄付を行った研究者代表者等が、他の研究機関等に所属することとなる場合であつて、当該研究代表者等が、新たに所属することとなる研究機関等において当該設備等を使用することを希望する場合は、当該研究者に当該設備等を返還する。
(物件の調達)
第16条 直接経費からの支出による物件の購入は、調達規程の定めによるものとする。
(旅費の支出)
第17条 直接経費からの旅費の支出は、出張等規程の定めによるものとする。
(謝金の支出)
第18条 直接経費による謝金の支給基準は、別に定める。
(研究支援者の受入れ)
第19条 補助事業の遂行のために特に必要があると学長が認めるときは、当該研究費補助金の直接経費の当該予算内において研究支援者を置くことができるものとする。
2 研究を立案する場面で、研究組織の構成員として研究支援者を配置する場合は、あらかじめ学長の承認を経るものとする。
3 研究支援者については別に定める。
(派遣労働者の受入れ)
第20条 補助事業の遂行に係る事務を行わせるため、労働者派遣事業者と労働者派遣契約を締結し、派遣された労働者を受け入れることができる。
(研究費補助金の翌年度における使用)
第21条 研究代表者等は、研究費補助金の交付決定後に予想し得なかったやむをえない事由により研究の実施が完了しないこととなった場合において、過年度にわたる研究費補助金の使用が認められている場合には、繰越の手続を行うものとする。
(内部監査の実施)
第22条 交付された研究費補助金の適正な使用を確保するため国等が定めるものの他、必要に応じて内部監査を行うものとする。
2 内部監査の種類は次の各号に掲げるものとする。
(1) 無作為抽出による通常監査
(2) 特別監査
3 内部監査に必要な事項は別に定める。
(細則)
第23条 この規程の実施に伴う事務取扱いについては、事務局長が別に定める。
(その他)
第24条 この規程に定めのない事項については、学長が別に定めるものとする。
(改廃)
第25条 この規程の改廃は財務委員会若しくは研究活動推進委員会の議を経て、教授会が行うものとする。
附 則
1 この規程は、平成19年10月17日に施行する。
2 日本体育大学及び日本体育大学女子短期大学部外部資金による研究補助金に関する規程(平成19年4月10日学長裁定)は廃止する。

【編集後記】 広報委員会ではメディアへの露出度が高い競技の応援を通じて日体大の広報PR活動を行っています。今年も出張駅伝では島根県同窓会の皆様にご協力いただきながらのぼり旗を治道に立てました。テレビをご覧になられた方は気づかれたと思います。ゴール手前に映る「ガンバレ、日体大!」と書かれた旗。これは島根県で教員をなさっているOBのお子様で小学生の姉妹が丹精込めて作ってくれたものです。そのOBはこう言われました。「ここに来れば日体大ファンが自然に集まるんだよ。」今確実に広がっていく日体大サポーターの輪。この光景が全国各地で見られる日を楽しみにしています。